

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LET'S READ 2 授業例②

K.H. 先生

## 指導計画表

(全2時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■問題練習 ・本文の導入・聞き取り練習 ・新出語句、重要表現の導入と練習
2	・和訳 ・音読・シャドウイング ・Read and Think B

## 実践例

### 1. はじめに

Let's Read 2 は中学校 3 年生の最後に扱われる単元です（付録に Further Reading もありますが）。生徒たちにとって、この A Moment of Peace を読むことは中学校 3 年間の英語学習の集大成と言ってもよいでしょう。しかし、実際のところ、この単元を扱う頃の生徒たちの状況を考えると、まさに受験一色、多くの生徒たちにとっては、どんなに優れた教材であっても、入試に関係のないことはやりたくない、と言ったような状況です。また、同時に、中には英語に対して強い苦手意識を持ち、入試においてさえ、英語をあきらめてしまっている生徒がいるのが中学校の現状です。このような状況を踏まえた上で、A Moment of Peace を通して、中学校 3 年間の集大成としての授業を行うことが、英語科教員には必要だと思います。

### 2. 普段の教科書を使った

#### Reading の授業の流れ

先に述べたような状況での、A Moment of Peace の扱いに触れる前に、普段の授業について述べておきたいと思います（いきなり、LET'S READ 2 の単元だけを抜き出して授業するわけではなく、3 年間継続しての授業でありますので）。

普段の授業で心がけているのは、「音声」と「内容(contents)と文脈(context)」を大切にすることです。

まず、年度初めの初めて担当するクラスで必ず、以下のように、外国語学習の基本は「音声」だという話をします。

「私たち日本人は読み書きできるのは当たり前と思っていますが、世界には文字を持っていない民族や文字を読み書きできない人々がたくさんいます。しかし、この世の中に存在する人間はみんな言語を使ってコミュニケーションをとることができるのです。(中略) 黒板に書いた「have」という単語を読みなさいと言われると、たいがいの日本人は沖縄に生息している毒へびと同じ発

音でこの単語を読みます。実際の音を聞かないで文字を読もうとすると正しく言葉は身につけられないのです。」(資料 1)。

また、音声と同じくらい大切にしているのが、内容(contents)と文脈(context)です。教科書の本文導入の前に、文脈から切り離された単語を覚え、意味を持たない機械的な練習で文法を学ぼうとすれば、英語嫌いは必ず増えます。英語が得意だった英語科教員は、単語をリストで整理して覚えることや、機械的な文法練習を苦とは思わないのですが、ほとんどの学習者は意味のない作業は嫌いです。NEW CROWN の題材は幅が広く、USE Read や LET'S READ ではより深く学ぶことができるので、多くの学習者がその内容に興味を持つはずで

実際の授業の進め方は、生徒たちに「全体」を示してから、「部分」を説明するように心がけています。具体的には、まず、教科書の「とびら」の写真などを使い、オーラルイントロダクションで、単元を理解するにあたってのヒントを与えます。そして、USE Read や LET'S READ であれば、資料 2 のようなワークシートを使って、全体をリスニングさせ、本文全体に目を通させます。このワークシートには、Teacher's Manual の CD-ROM などから、教科書本文 wo

コピーして、単語（なるべく動詞、名詞、形容詞などのわかりやすいもの）をいくつか抜き出し、欄外に示しておきます。本文中に空欄は作らず、ぱっと見ではどこから単語を抜いたのかわからない状態にしておきます。生徒たちは CD 等で本文を聞きながら、抜き出した単語を本文中の適切な箇所に補います。英語が不得意な生徒でも、ほとんどの者が、この活動に取り組むことはできます。2~3 回聞けば、だいたいの生徒は抜き出した単語を適切な場所に補うことができます。これで数分の間に、少なくとも 2~3 回は、語句の説明なしに、本文に目を通したことになります。生徒たちは、既習の語句や文法をヒントに、本文の内容を「なんとなく」でも推測することができます。

仮に、授業や宿題で本文を音読や黙読するように指示をしたとしても、多くの生徒は発音や意味のわからない語句でその都度止まり、最後まで読むことができません。中には最初から本文を読むのを諦めてしまう生徒もいます。

また、一方で、まじめな生徒は単語の意味を調べ、和訳をしながら本文を読むかもしれませんが、和訳をしながら読んでいたら、早く読むことはできませんし、時間がいくらあっても足りません。これでは、いつまでたっても英語の読解力をつけることはできません。

英語科教員としては、生徒たちに、英文を読むのをあきらめず、そして、和訳をせずにできるだけ早く英文を読めるようになって欲しいと願っています。生徒は意味や発音がわからない単語があっても、日本語訳ができなくても、できるだけ早く繰り返し英文を読んで、ぼんやりとでも内容が理解できたほうが、単語を調べながら、ダラダラと和訳するよりも、ずっと効果的に英文の読解力がつきます。先に述べたワークシートで、英文を聞きながら本文を目で追う活動をしているときは、少なくとも生徒たちはまとまった英文に目を通し、和訳はしていません。何回か繰り返せば、少しは意味を理解することができるかもしれませんが、この方法が英文を読むのをあきらめてしまう生徒を減らし、和訳に頼らないで英文を読解できる一つのヒントになるのではないかと考えています。

この活動後に、USE Read の In-Reading や LET'S READ の Read and Think のような問題練習をさせます。しかし、単純な英問英答であっても、多くの生徒にとって、かなりハードルは高く、授業で答え合わせをすれば、英語が得意な生徒であっても、「どう答えていいかわからない」と言って、模範解答を写すだけになってしまいます。ただ答えを写すだけの授業では意味がないので、本文中の答えと思われるところに、下線を引くように指示をしたり、あるいは、予め答えに選択肢を用意しておき、正しいものを選ばせるようにさせます（この他に、Teacher's Manual のワークシート集にある Summary などにも取り組みさせます）。

また、このような問題練習の時は、授業中に生徒に取り組みせるのであれば、グループ活動にして生徒たち同士に学び合いをさせるように努めます。宿題にする時も、答え合わせ前に必ずグループで答えの確認をさせます。中にはグループ内で、答えを写させてもらうだけの生徒もいますが、グループで取り組ませることによって、諦めてしまう生徒を減らすことができます。

ここまでの課題は、知らない単語やわからない表現があっても日本語のヒントをなるべく与えないで取り組ませます。「テストではないから気楽に勘を働かせよう」というような雰囲気で行います。語句の意味が分からなくても、和訳ができなくても、止まらずに繰り返し読ませ、知っている単語の意味などから、質問の意味や答えを類推させるようにします。極端なことを言ってしまうと、意味がわからなくても答えを見つけ出そうとする姿勢を身につけさせたいと思っています。本文全体に目を通して、答えがありそうなところを見つけるだけでも、一文ずつ生徒に和訳させて解釈しながら読み進めるより、確実に早く全体の意味をとらえることができます。答え合わせのとき、初めて日本語でヒントを与えると「なんだそうだったのか」と生徒はすっきりした表情をします。

次にいよいよ新出語句の導入や難しい表現の解説をします。USE Read や LET'S READ は新出語句が多いので、自作のフラッシュカードを用い、練習します。LET'S READ の単語は教科書本文のわきに出ていますので、即発音練習に進めますが、USE Read の新出語句の意味調べは宿題にします。しかし、なかなか家で単語調べをやる生徒も少ないので、辞書指導を兼ねて授業中に調べさせることもあり。その時もグループで取り組ませ、分担して調べさせるなど負担を少なくするように配慮します。

語句の意味を確認したら、和訳です。授業では、わかりにくい英文は適宜解説しますが、一文一文じっくりと和訳を確認するようなことはしません。生徒達にはいくつか空欄を作った和訳を与えて、本文の和訳を完成させる課題を与えます（資料3）。これも宿題にして、授業では簡単に確認する程度にします。和訳に関してはいろいろな意見があると思ひ

ますが、和訳で意味を確認することによって、日本人の学習者は安心することができます。しかし、和訳をしながら読むことは避けたいと思います。和訳はあくまで確認にすぎないのだと生徒達には言っています。

日本の英語学習者は単語調べや、和訳に多大な時間をつき込みます。英語が好きな生徒達はそれが勉強だと思ひ、その努力を重ねるかもしれませんが、単語調べと和訳は確実に英語嫌いを増やします。膨大な時間をかけた割に、その英文から得られる知識や情報はわずかなものしかないからです。単語調べと和訳にかかる時間があるのなら、同じ時間を、繰り返し英文を読む時間に使って欲しいと生徒達には言っています。「読書百遍意自ずから通ず」という姿勢でリーディングには取り組んで欲しいと思っています。

ワークシートを使い、リスニングや問題練習で本文全体をとらえ、次に語句や和訳によって細かいところを見た後は、音読をします。年間を通して、音読を重視した授業をしています。音読を通して、発音や語句や文法の定着を図り、英語を発音したり、英文を読むことへの抵抗を減らすことができます。GETやWe're Talkingのような短い文章は暗唱をさせますが、USE ReadやLET'S READはスラスラ読めることを目標にしています。

【資料 4】

日付	Unit	LESSON	クラスメイトより	自己評価	JTEより
1	/	6 Lesson 1 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで2人目	Great!
2	/	8 Lesson 1 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
3	/	10 We're Talking 1	自分のクラスで1人目 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
4	/	12 Lesson 2 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
5	/	14 Lesson 2 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
6	/	16 Lesson 2 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
7	/	17 Lesson 2 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
8	/	22 We're Talking 2	自分のクラスで1人目 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
9	/	24 Lesson 3 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
10	/	26 Lesson 3 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
11	/	28 Lesson 3 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
12	/	29 Lesson 3 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
13	/	34 We're Talking 3	自分のクラスで1人目 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
14	/	36 Lesson 4 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
15	/	38 Lesson 4 GET	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
16	/	40 Lesson 4 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
17	/	41 Lesson 4 USE	英語が大好きです 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!
18	/	46 We're Talking 4	自分のクラスで1人目 読むのが好きです!	自分のクラスで1人目	Great!

© Evaluation Criteria: 評価基準 ※次の点に気を付けて練習し、発表しよう。  
 \* Presentation Skills (Volume, Eye Contact, Movement)  
 \* Pronunciation & Fluency (声量、目線、身振りの)  
 \* Intonation & Energy (抑揚、音量、緊張感、意気込み)  
 \* Pronunciation & Fluency (声量、目線、身振りの)  
 \* Intonation & Energy (抑揚、音量、緊張感、意気込み)

また、授業中に音読を実践するに当たって、音読カードを作って、評価をするようにしています(資

料4)。自己評価、クラスメートからの評価、教師からの評価の欄を作って、簡単に一言書くだけです。発表すれば褒めてやり、Great!など大きめに評価欄に記入します。とにかく褒めることを目標にしています。

音読のやり方は、それぞれの先生方はいろいろ工夫をされていると思いますし、様々なところで紹介されていますので、ここで詳しく述べませんが、私が年間通して実践しているのが、シャドウイングです。実践されている先生方も多いと思いますが、一年生の最初や年度の初めにその意味ややり方を指導すれば、生徒達は熱心に取り組めます。シャドウイングができるようになることは目標ではなく、英語を身につけるための一つの手段でしかありませんが、生徒達が授業中に簡単に取り組むことができ、効果があるという点で継続して取り組ませています。

シャドウイングを十分に行った後は、グループになって音読の練習をさせてから、発表を行います。授業中に、USE ReadやLET'S READの本文全体を全員に読ませることはできないので、グループごとに同時読みをさせたり、一文ずつ順番に読ませたりしています。これも一年生の最初や年度の初めにやれば、生徒達は抵抗なく発表することができます。発表して評価する場を設けることによって、生徒たちのモチベーションが上がり、音読への抵抗が少しずつなくなってきました。

以上が普段の英語の授業の流れです。もちろん、上記のほかに、レッスンの題材に関する資料や教材(映像や音楽など)を使うこともあります。基本は音声による導入を行い、CDなどで全体を聞かせ、全体の意味を大まかにとらえてから、単語や文法の導入を行い、シャドウイングなどで音読をして定着を図るということです。

3. LET'S READ 2  
A Moment of Peaceの指導

LET'S READ 2のA Moment of Peaceも基本的には普段の授業と同じ流れで行いますが、はじめに述べましたように、中学校3年生がこの課を学ぶときは、受験直前であるという时期的なものを考慮して、

授業を行います。まず、入試に役に立つように、授業中に問題練習を取り入れ、あまり時間をかけずに取り組めるようにします。宿題は出さずに、2時間扱いで行います。そして、英文を読むことを苦手とする生徒達が飽きないように、グループワークを取り入れます。

まず、あらかじめRead and Thinkやワークシート集のSummaryなどを参考にして、10～15分程度でできる問題を自作します。一時限目の授業で、テストと同じように、問題を配布し、時間を計って問題に取り組ませます。中にはまったく手も足もでないという生徒もいますが、入試直前ですので、個人で取り組ませます。答え合わせをすると、生徒達は結果だけで一喜一憂して解説を聞かなくなるので、答え合わせはこの時点ではしません。

15分たったら問題を解くのをやめさせ、資料2のワークシートを配り、CDで本文を聞かせます。ここで、問題に取り組まなかった生徒も、一応、全体には目を通します。

次にフラッシュカードを用いて、新出語句すべてを導入します。このとき、試験に出そうな重要な語句や表現を強調して解説します（知っていて当然な単語が、初めて登場したりします）。

そして二時限目は、フラッシュカードで新出語句の復習をしてから、プリント（資料3）を使い、和訳を確認します。これはグループになって取り組ませます。先に述べましたように空欄を埋めるだけなので、時間はあまりかかりません。和訳を確認した後でシャドウイングを行います。生徒達には和訳やシャドウイングのときに一時限目に行った問題を意識しながら取り組むように指示します。答え合わせは、シャドウイングの後、グループ内で答を検討して、発表させます。また、同時にグループ内でRead and Think B (A Moment of Peaceというタイトルは、どのようなことからつけられたタイトルだと思いますか。)について話し合わせます。

以上のようなやり方で、LET'S READ 2に取り組めます。入試直前ということを考慮して、問題練習に取り組ませること、時間をかけないこと、Readingをあきらめないようにグループでの活動を取り入

れることなどを基本にして、授業を組み立て進めていきます。

#### 4. おわりに

本校で少人数習熟度別の授業を実施して久しくなりますが、いつも考えていることは、英語が苦手な生徒たちに英語をあきらめさせない方法です。英語が苦手な子供たちに「まず単語を覚えなさい」と言う大人（教員や保護者）が多すぎるように思います。また、英語が苦手な子供たちが通う塾では機械的な文法ドリルを繰り返しやらせます。英語が苦手な生徒が文脈から切り離れた単語をいくつ覚えられるでしょうか。また、意味のない機械的なドリルを繰り返した生徒たちは、英語が得意になっているのでしょうか。

言葉には必ず意味があり、意味があることを聞いたり読んだりするから、外国語学習に興味を持つのだと思います。しかし、自分では良いと思う活動を授業で実践しても、なかなか興味を示さない生徒が多い現実には、反省を繰り返す毎日ですが、英語科教員として、日々の授業を通して、少しでも英語に興味を持つ生徒を増やすことができるように、努力を続けていかなくてはならないと思っています。